

【解説】

本 CD には、合計 55トラックが含まれています。各症例のプロフィールと対応するトラックナンバー（**1**～**55**）は表 1～5 の通りです。ナレーターによって症例のプロフィールが読み上げられた後、自由会話と長文音読が再生されます（健常発話者については、長文音読のみ）。

1. 健常発話者

健常発話者のスピーチ・サンプルについては、各年齢群ごとに性別の異なるスピーチ・サンプルが 1 例ずつ、計 6 例含まれています。年齢については、表 1 のとおりです。

2. ディサースリア例

ディサースリア例については、項目ごとに、段階 1（軽度障害）、段階 2（中等度障害）、段階 3（重度障害）の 3 例のスピーチ・サンプルが含まれています。各サンプルについて、自由会話と長文音読（「北風と太陽」の音読）の両方を聞くことができます。発話の印象は自由会話の内容によっても変化するため、可能な限り、「1 日の生活の様子について」「好きな食べ物について」などテーマを限定しました。しかしすべての症例においてこうした統制が可能であったわけではないです。症例によっては自発話が非常に乏しい人もいますので、「北風と太陽」の音読とあわせて評価用基準サンプルとして利用して下さい。

しかし、項目によっては、スピーチ・サンプルが含まれていないものもあります。また、同一の症例が複数の項目のサンプルとなっているものもあります。表 2～5 に、項目ごとに、各段階に含まれている症例の年齢、性別、医学的診断名、ディサースリアのタイプを示します。

さて、当然のことながら、ほとんどすべてのディサースリア例には複数の発話特徴がみられます。スピーチ・サンプルを選択するにあたり、当初は、ディサースリアの有無に関わりなく特定の発話特徴のみを呈するサンプルを提示することも考慮に入れました。例えば、声帯ポリープを選択することで、純粋に音声のみが障害されたサンプルを提示することが可能です。口蓋裂例を取り入れることで、鼻咽腔閉鎖機能に選択的な障害のあるサンプルを示すことができます。

しかし、こうしたスピーチ・サンプルを選択しますと、粗糙声や開鼻声の理解を深めることに役に立っても、実際のディサースリアの臨床にはあまり役に立たないと思われまます。ディサースリア例に通常認められる粗糙声は声帯ポリープ患者の粗糙声よりも、努力性嗚声や氣息性嗚声を伴いやすい傾向があると思われまます。また、分泌物の液体振動音による湿性の特性を伴いやすい傾向もあります。また、努力声は高頻度で粗糙声を伴っており、ディサースリアにおける軽度の努力声というのは、粗糙声の方がむしろ目立つ場合が多いと思われまます。そこで、各発話特徴につ

表 1 健常発話者のスピーチ・サンプルの年齢

トラックナンバー	年齢群	年齢	性別
1	青年	25 歳	男性
2	青年	22 歳	女性
3	中年	45 歳	男性
4	中年	46 歳	女性
5	老年	69 歳	男性
6	老年	66 歳	女性

表 2 呼吸・発声機能に含まれる項目ごとの症例の年齢、性別、医学的診断名、ディサースリアのタイプ

	トラックナンバー	段階	年齢	性別	医学的診断	ディサースリアのタイプ
発話の短いとぎれ	7	1	66	女性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
	8	2	53	男性	多発性脳梗塞	痙性
	9	3	68	男性	多発性脳梗塞	痙性
声量の低下	10	声量の低下についてスピーチ・サンプルで示すことは困難であるため、ありません。				
粗糙性嗚声	11	1	33	女性	ジストニー	運動過多性
	12	2	53	男性	多発性脳梗塞	痙性
	13	3	59	男性	脳梗塞	弛緩性
氣息性嗚声	14	1	37	女性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
	15	2	81	男性	脳梗塞	UUMN
	16	3	27	女性	重症筋無力症	弛緩性
無力性嗚声	17	1	61	女性	脊髄小脳変性症	失調性
	18	2	83	女性	脳梗塞	UUMN
	19	3	68	女性	脊髄小脳変性症	失調性
努力性嗚声	20	1	65	男性	ニューロバチー	弛緩性
	21	2	70	男性	脊髄小脳変性症	失調性
	22	3	67	男性	多発性脳梗塞	痙性
声の高さの異常 (高すぎる)	23	1	54	男性	パーキンソン病	運動低下性
	24	2	61	男性	脊髄小脳変性症	失調性
	25	3	55	女性	脳炎	失調性
声の高さの異常 (低すぎる)	26	1	64	女性	脳梗塞	失調性
	27	2	33	女性	ジストニー	運動過多性
	28	3	68	女性	脊髄小脳変性症	失調性
声のふるえ	29	1	59	女性	小脳出血	失調性
	30	2	17	女性	ミオクロニー	運動過多性
	31	3	該当スピーチ・サンプルはありません。			

いては、このような一連のディサースリアの特徴を良く反映している、という視点から各サンプルを選定しました。

3. 発話特徴

各発話特徴の定義について、表 6 に示します。

※本 CD は、データベースソフト「標準ディサースリア検査 CD-ROM」に収録されているスピーチ・サンプルを Audio CD にしたものです。

※標準ディサースリア検査の内容については、書籍「標準ディサースリア検査」（インテルナ出版）をご覧ください。

▶標準ディサースリア検査 (AMSD) (マニュアル) 定価 5,985 円 (本体 5,700 円+税 5%) ISBN978-4-900637-17-7

▶標準ディサースリア検査 CD-ROM 定価 9,975 円 (本体 9,500 円+税 5%) ISBN978-4-900637-41-2

▶標準ディサースリア検査キット 定価 29,400 円 (本体 28,000 円+税 5%)

表3 鼻咽腔閉鎖機能に含まれる項目ごとの症例の年齢、性別、医学的診断名、ディサースリアのタイプ

	トラックナンバー	段階	年齢	性別	医学的診断	ディサースリアのタイプ
開鼻声	32	1	66	女性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
	33	2	37	男性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
	34	3	44	男性	筋萎縮性側索硬化症	混合性

表4 口腔構音機能に含まれる項目ごとの症例の年齢、性別、医学的診断名、ディサースリアのタイプ

	トラックナンバー	段階	年齢	性別	医学的診断	ディサースリアのタイプ
構音の歪み	35	1	78	男性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
	36	2	66	男性	放射線ニューロパチー	弛緩性
	37	3	59	女性	多発性脳梗塞	痙性

表5 プロソディー機能に含まれる項目ごとの症例の年齢、性別、医学的診断名、ディサースリアのタイプ

	トラックナンバー	段階	年齢	性別	医学的診断	ディサースリアのタイプ
発話速度の異常*	38	1	78	男性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
	39	2	73	男性	脊髄小脳変性症	失調性
	40	3	70	男性	進行性核上性麻痺	運動低下性
発話速度の変動	41	1	56	男性	脳梗塞	UUMN
	42	2	68	男性	脊髄小脳変性症	失調性
	43	3	70	男性	脊髄小脳変性症	失調性
音の繰り返し	44	1	78	男性	パーキンソン病	運動低下性
	45	2	78	女性	線条体黒質変性症	運動低下性
	46	3	72	男性	パーキンソン病	運動低下性
声の大きさの単調性	47	1	62	女性	反回神経麻痺	弛緩性
	48	2	67	男性	多発性脳梗塞	痙性
	49	3	70	男性	進行性核上性麻痺	運動低下性
声の高さの単調性	50	1	59	男性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
	51	2	67	男性	多発性脳梗塞	痙性
	52	3	44	男性	筋萎縮性側索硬化症	混合性
声の大きさの過度の変動	53	1	68	男性	脊髄小脳変性症	失調性
	54	2	17	女性	ミオクロニー	運動過多性
	55	3	55	女性	脳炎	失調性

*「発話速度の異常」に含まれているスピーチ・サンプルはすべて、「遅すぎる発話速度」のもので、速すぎる発話速度についてのスピーチ・サンプルは、ここには含まれていません。

表6 発話特徴の定義

①呼吸・発声機能	発話の短いとぎれ：不自然に発話が短くとぎれる 声量の低下：声が小さすぎる 粗糙性嘔声：しわがれた、粗いだみ声。または、がらがら声。声帯に分泌物が付着して生じる液体振動音も含む 氣息性嘔声：息漏れ音を伴うかすれ声。最重度の場合は失声 無力性嘔声：弱々しくか細い声 努力性嘔声：絞り出すような喉を締め付けた力んだ声 声の高さの異常（高すぎる・低すぎる）：年齢、性別に比して、声の高さが一貫して高すぎる、もしくは低すぎる 声のふるえ：声が揺れたり、ふるえたりする。ふるえの程度から評価する
②鼻咽腔閉鎖機能	開鼻声：呼吸が不適切に鼻腔へ流出して過度の鼻腔共鳴が生じ、声が鼻音化する
③口腔構音機能	構音の歪み：母音および子音が不正確になり、歪む。重症化すると、他の音に置換される
④プロソディー機能	発話速度の異常（速すぎる・遅すぎる）：話す速さが通常よりも速い、もしくは遅い 発話速度の変動：話す速さが、速くなったり遅くなったり、不適切に変動する。構音動作の異常を代償して時折不自然にゆっくりと話すものも含む 音の繰り返し：音、音節、単語の一部などを繰り返す。繰り返しの頻度から評価する 声の大きさの単調性：声の大きさの変化が乏しく、自然な声の大きさの変動性に欠ける 声の高さの単調性：抑揚の変化が乏しく、自然な声の高さの変動性に欠ける。特定の高さの域に制限される傾向がある 声の大きさの過度の変動：声の大きさが突然非意図的に変動し、過度に大きくなりすぎたり、小さくなりすぎたりする